

か、はらず、我邦は唐土の南土に近く、人民卉服して裘服せず、されば風寒の病少く、濕熱の病
 おほかるべきなり、天文醫按、春の末より秋の末まで熱氣なり、去はふき出、す、はな出れば、風
 の内一二人も好候ものも、煩によりて熱氣にも其分候、當世は寒の者百人
あつき物を好候ものも、煩によりて熱氣にも其分候、當世は寒の者百人

〔續日本紀三十六〕天應元年四月辛卯、詔云、中朕以寡薄寶位、受賜氏年久重奴、而爾嘉政頻闕氏

天下不得治成、加以元來風病、爾苦々身體不安、復年毛彌高成爾餘命不幾、今所念、久此位波避天、暫

間毛御體欲養止奈所念、故是以皇太子止定賜留山部親王爾天下政波授賜中略、是日皇太子

受禪即位、

〔日本後紀十七〕大同四年四月丙子朔、讀經宮中、又遣使於京下諸寺誦經、天皇自從去春、寢膳不安、遂

禪位於皇太弟、嵯詔曰、現神等大八洲所知、倭根子天皇、我詔旨止良末、勅御命乎親王等、王等臣等百

官、乃人等天下、公民衆聞食、止宣朕躬劣弱、氏洪業爾不耐已止、本自思畏、利賜止許暫毛不息、加以朕躬

元來風病、爾苦々身體不安、志經日累月、氏萬機缺懈、奴今所念、久此位波避天、一日片時、毛御體欲養

止奈所念、須、故是以皇太弟止定賜流某親王爾天下政波授賜布諸衆此狀乎悟清直心乎毛此皇

子乎輔導伎天下百姓乎可令撫育止勅天皇御命乎衆聞食止宣、戊寅略中、天皇遂傳位、

〔榮花物語一〕月宴、かゝるほどに、九でうどの師輔原なやましようおぼされて、御かせなどいひて、おほ

んゆゆでなどして、くすりきこしめして、すぐさせ給ふ程に、まめやかにくるしうせさせ給へば、

宮もさとにいでさせ給ぬ、

〔榮花物語二〕花山、七月二年、永觀、すまひもちかくなれば、これをわか宮條〇一にみせばやとの給はすれ

ど、おと兼藤原、すこしふさはぬさまにて、すごさせ給に、たび〇おと兼參らせ給へと、うちよ

りめしあれど、みだりかせなど、さま〇の御さはりどもを申させたまひつ、まいらせ給はぬ

を、すまひちかくなりて、まきりにまいらせたまへとあれば、まいりたまへれば、いとこまやかに